

ヒヤリ・ハット事例報告書作成の手引き

(一社)全国地質調査業協会連合会

1. ヒヤリ・ハット事例報告の目的

「ヒヤリ・ハット」とは、幸い事故には至らなかったものの、事故の一步手前で「ヒヤリ」としたり「ハット」した体験のことです。大きな事故が発生する背後には、必ずこのヒヤリ・ハットの体験が数多く存在すると言われていています。

従って、ヒヤリ・ハット体験を教訓化して理解することにより、結果として更なる重大な事故(アクシデント)を未然に防止できるようになると考えます。

そのためには、「ヒヤリ・ハット事例を報告する仕組み」と「報告された情報を集約化(データベース化)して公開・共有化する仕組み」が必要です。

☆「ヒヤリ・ハット事例報告書」は、報告する仕組みを構成する根幹です。

☆報告書自体は記名制ですが、**会社名や個人名の公開拒否を選択**できます。

☆**報告書の提出によって、全地連は個人の責任を追及することはありません。**

現場作業に従事される技術者の方で、ヒヤリ・ハットを体験された方は、是非その情報をお寄せください。

一方、全地連は「全地連現場技術者支援ウェブサイト」を開設しました。このサイトは、ヒヤリ・ハット事例を始めとして、厚生労働省から発表されている労働災害情報や、全地連技術フォーラムで発表された論文の中から抽出した現場作業情報などを閲覧できるようになっています。

これらの仕組みにより、現場で働く技術者が今後従事される現場作業での安全対策に直結することを願っています。

2. ヒヤリ・ハットとは

本書で言うヒヤリ・ハットとは、表-1 に示す「レベル 0」と「レベル 1」に該当する災害とします。「ヒヤリ・ハット事例報告書」に記載する災害は、この二つのレベルのみです。

表-1 ボーリング現場における災害のレベル(案)

区 分	レベル	内 容
ヒヤリ・ハット	0	エラーや掘進装置などの不具合を未然に防ぐことができた場合
	1	エラーや掘進装置などに不具合が発生したが、 従事者等に被害が無かった場合
インシデント	2	従事者や第三者(以後、従事者等)に検査の必要性が生じた場合
	3a	従事者等に軽微な治療や処置(消毒や湿布など)が必要となった場合
アクシデント	3b	従事者等に濃厚な治療や処置(予定外の処置や治療、入院など)が 必要となった場合
	4	従事者等に永続的な後遺症が残った場合
	5	従事者等が死亡した場合

引用：医療事故レベルの分類(藤田保健衛生大学病院)

		所属会社名		公開の可否	
レベル		担当者氏名		公開の可否	

いつ？	20 年 月 日	時 分頃	事業所の規模		年 齢	満 歳
現場種類		その他の場合				
作業状態		その他の場合				
事故の型		その他の場合				
パターン		特記事項				
起 因 物		その他の場合				
(負傷) 部位		その他の場合				

ヒヤリ・ハットの概要	
------------	--

自身の状況 該当するもの全て	<input type="checkbox"/> 1. 良く見え(聞こえ)なかった	<input type="checkbox"/> 2. 気がつかなかった	<input type="checkbox"/> 3. 忘れていた
	<input type="checkbox"/> 4. 知らなかった	<input type="checkbox"/> 5. 深く考えなかった	<input type="checkbox"/> 6. 大丈夫だと思った
	<input type="checkbox"/> 7. あわてていた	<input type="checkbox"/> 8. 不愉快なことがあった	<input type="checkbox"/> 9. 疲れていた
	<input type="checkbox"/> 10. 無意識に動いた	<input type="checkbox"/> 11. やりにくかった	<input type="checkbox"/> 12. バランスを崩した

「このヒヤリ・ハットが、更なる深刻な事態を引き起こす可能性について」思いつけば記入
「今だったらこうする」という自分なりの対処方法があれば記入
会社などに対する提案や要望などがあれば記入

安全管理者による記入欄	担当者氏名		公開の可否	
状態(複数選択)	<input type="checkbox"/> 物や設備の欠陥	<input type="checkbox"/> 作業環境の欠陥	<input type="checkbox"/> 手順や工程の欠陥	<input type="checkbox"/> その他
状態(複数選択)	<input type="checkbox"/> 整備点検の不備	<input type="checkbox"/> 操作・行動の失敗	<input type="checkbox"/> 正規手順の逸脱	<input type="checkbox"/> 心身不調や疾病
	<input type="checkbox"/> 無資格や不慣れ	<input type="checkbox"/> 見落としや錯誤	<input type="checkbox"/> 装備の違反や不備	<input type="checkbox"/> その他

原因の分析

この事案への対策

リスクの評価		発生頻度		対策	20 年 月 日	実施	
--------	--	------	--	----	----------	----	--

		所属会社名	〇〇□□地質(株)	公開の可否	公開拒否
レベル	1	担当者氏名	全地 蓮太郎	公開の可否	公開拒否

いつ？	20**年**月**日	10時30分頃	事業所の規模	5人未満	年齢	満53歳
現場種類	調査	その他の場合				
作業状態	掘進中	その他の場合				
事故の型	挟まれ・巻込まれ	その他の場合				
パターン	挟む	特記事項				
起因物	ロッドホルダ	その他の場合				
(負傷)部位	手	その他の場合				

ヒヤリ・ハットの概要	調査ボーリングで掘進速度が遅くなったので、岩盤に到達したと思い掘進を中止した。助手がチャックを緩めたところ、ロッドが予想に反して落下した。助手は慌ててロッドをつかんでしまったため、ロッドと共に下に移動した。ホルダーに手を挟まれそうになったが、すんでの所で手を離したため、難を免れた。
------------	---

自身の状況 該当するもの全て	<input type="checkbox"/> 1. 良く見え(聞こえ)なかった	<input type="checkbox"/> 2. 気がつかなかった	<input type="checkbox"/> 3. 忘れていた
	<input type="checkbox"/> 4. 知らなかった	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 深く考えなかった	<input type="checkbox"/> 6. 大丈夫だと思った
	<input checked="" type="checkbox"/> 7. あわてていた	<input type="checkbox"/> 8. 不愉快なことがあった	<input type="checkbox"/> 9. 疲れていた
	<input type="checkbox"/> 10. 無意識に動いた	<input type="checkbox"/> 11. やりにくかった	<input type="checkbox"/> 12. バランスを崩した

「このヒヤリ・ハットが、更なる深刻な事態を引き起こす可能性について」思いつけば記入
手を離す他移民が遅れていたなら、ロッドホルダーとロッドの間に手か指を挟んでいた。
「今だったらこうする」という自分なりの対処方法があれば記入
ロッドが不時に落下した時はそのままに任せて、直ちにボーリングマシンから離れる。
会社などに対する提案や要望などがあれば記入

安全管理者による記入欄		担当者氏名	〇〇 △□▽	公開の可否	公開拒否
状態(複数選択)	<input type="checkbox"/> 物や設備の欠陥	<input type="checkbox"/> 作業環境の欠陥	<input checked="" type="checkbox"/> 手順や工程の欠陥	<input type="checkbox"/> その他	
状態(複数選択)	<input type="checkbox"/> 整備点検の不備	<input checked="" type="checkbox"/> 操作・行動の失敗	<input type="checkbox"/> 正規手順の逸脱	<input type="checkbox"/> 心身不調や疾病	
	<input type="checkbox"/> 無資格や不慣れ	<input type="checkbox"/> 見落としや錯誤	<input type="checkbox"/> 装備の違反や不備	<input type="checkbox"/> その他	

原因の分析
思いがけない現象に対する作業員の反射行動についての教育訓練が不足だった可能性がある。

この事案への対策
同上の教育訓練の実施。

リスクの評価	重度	発生頻度(予想)	低い	対策	20**年**月**日	実施	予定
--------	----	----------	----	----	-------------	----	----

ヒヤリ・ハット報告書(ボーリングマシンを使用した現場作業)の記載方法

2017年12月

(一社)全国地質調査業協会連合会

1. 記載上の留意点

<input checked="" type="checkbox"/> 1. ****

メニューの中から選択してください。メニュー以外の文字は入力できません。

文字や数字を入力してください。

該当するもの全てにチェックを付けてください。間違った場合、もう一度チェックすると元に戻ります。

2. 報告者が記載する項目と内容

所属会社名

ボーリングマシンの「機長」が代表して記載してください。

公開の可否

以下の枠内(公開許諾または公開拒否)から選択してください。

公開許諾	: 「全地連現場技術者支援ウェブサイト」で 会社名が公開されます 。
公開拒否	: 「全地連現場技術者支援ウェブサイト」での 会社名公開はありません 。

担当者氏名

ボーリングマシンの「機長」が代表して記載してください。

公開の可否

以下の枠内(公開許諾または公開拒否)から選択してください。

公開許諾	: 「全地連現場技術者支援ウェブサイト」で 氏名が公開されます 。
公開拒否	: 「全地連現場技術者支援ウェブサイト」での 氏名公開はありません 。

レベル

以下の枠内(0または1)から選択してください。

0	: エラーや掘進装置などの不具合を未然に防ぐことができた場合 (兆候の発見)
1	: エラーや掘進装置などに不具合が発生したが、従事者等に被害が無かった場合

いつ?

ヒヤリ・ハットに気づいた日時と時刻を記載してください。

事業所の規模

記入者(機長)が実際に勤務している会社に事業所が無い場合は会社全体の技術系社員数を、支社や支店がある場合はその事業所の技術系社員数を、以下の枠内から選択してください。

5人未満
5人~10人未満
10人~15人未満
15人~20人未満
20人以上

年齢

記入者(機長)の満年齢を記載してください。

現場種類

ヒヤリ・ハットを検知した現場の種類を以下の枠内から選択してください。
[その他]を選択した場合には、その現場の種類を「右側の入力枠」に記入してください。

調査	: 調査ボーリング
工事	: 工事ボーリング。工事に先行する調査ボーリングは「調査」です。
地すべり	: 地すべり工事のボーリング。地すべり工事に先行する調査ボーリングは「調査」です。
井戸	: 井戸掘削のためのボーリング。
温泉	: 温泉掘削のためのボーリング。
その他	: 右側の入力欄に該当する現場の種類を記入してください。

作業状態

ヒヤリ・ハットを検知した現場で、どのような作業をしていたのかを下の枠内から選択してください。
[その他]を選択した場合には、その作業の種類を「右側の入力枠」に記入してください。

掘進中	
準備中	: 現場での掘進準備中。掘進直後、現場を離れるまでの後片付けなどの作業も含みます。
倉庫整備	: ある特定の現場作業のための整備作業と、年間などでの定期整備作業の両方です。
運搬中	: 倉庫から現場近くの駐車場までのトラック輸送などのことです。
搬入中	: 現場近くの駐車場などから現場までの輸送のことです。モノレール運搬などが該当します。
搬出中	: 現場から現場近くの駐車場などへの輸送のことです。コア搬出なども含みます。
その他	: 右側の入力欄に、思いつく作業状態(型)を記入してください。

事故の型

ヒヤリ・ハットを検知した時、どのような事故が想定されたか（レベル0）、また発生したのか（レベル1）を下の枠内から選択してください。
 どれにも当てはまらない場合は「右側の入力枠」に記入してください。

墜落・転落	: 作業員が檣、機械段や斜面等から落ちることです。車両と共に転落した場合を含みますが、交通事故は除きます。
挟まれ・巻込まれ	: 物にはさまれる状態および巻き込まれる状態でつぶされ、ねじられるなどを言います。標準貫入試験のハンマなどによる挫滅創等が該当します。
激突され	: つり荷や動いている機械の一部分などが、作業員にあたった場合を言います。
高温・低温物と接触	: アーク、湯（温泉）や水蒸気（地熱や温泉）などに接触した場合を言います。
飛来・落下	: 飛んでくる物や落ちてくる物などが人にあたった場合を言います。自分や他人の持っていた物を落としたケースも含みます。
切れ・こすれ	: こすられる場合やこすられる状態で切られた場合を言います。刃物による切れ、工具取扱中の物体による切れやこすれなどを含みます
崩壊・倒壊	: 堆積物、足場や建築物等がくずれ落ちまたは倒壊して人にあたった場合を言います。立てかけてあった物が倒れた場合、落盤、なだれや地すべりなども含みます。
その他	: 右側の入力欄に、以下の中から該当する型を選択して記入してください。転倒、激突、感電、爆発、破裂、踏み抜き、おぼれ、動作の反動・無理な動作、交通事故（道路）、交通事故（その他）、その他、分類不能

パターン

ヒヤリ・ハットを検知した時、どのような災害パターン想定されたか（レベル0）、また発生したのか（レベル1）を下の枠内から選択してください。特記があれば「右側の入力枠」に記入してください。

一人不安全	: 本来は一人が支え、もう一人が主作業を実施するという二人で行う作業項目であるが、何らかの原因で支えのないまま一人で作業したために事故が発生するパターン。
二人意志乖離	: 上記同様に、一人が支え、もう一人が主作業を実施するという二人で行う作業項目において、二人の呼吸が合わずに事故が発生するパターン。
誤動作	: いわゆる人為的なうっかりミス。本来、フェールセーフが働いていれば防げる事故のパターン。
不安定作業	: 機械や道具・材料等がきちんと噛み合う（馴染む）前に、次の動作に移ってしまったり、足場や身体の体制が不安定なままに作業を行ってしまうパターン。
回転巻込れ	: 回転動力に衣服等が巻き込まれると、人間の力では抗し切れずに身体も巻き込まれ、障害に至ってしまうパターン。
回転強打	: 動力で回転する機材によって、身体が強打され、障害に至ってしまうパターン。
挟む	: 動力で回転する機材や重量物の機材の自重で身体の一部が挟まれて、圧迫障害に至ってしまうパターン。
資材落下	: 地上から吊り上げた資機材が何らかの原因で落下し、その落下資機材の直下に作業員がいた場合に事故が発生するパターン。
檣・機械転倒	: 掘削機械や檣などの重量物が何らかの原因で転倒したとき、その転倒資機材の直下に作業員がいた場合に事故が発生するパターン。
高圧油噴出	: 油圧式のボーリング機械で、何らかの原因で噴出した高圧油に直撃された場合に事故が発生するパターン。

起因物

どのような起因物によってヒヤリ・ハットが発生したのかを下の枠内から選択してください。
 [その他] を選択した場合には、その起因物を「右側の入力枠」に記入してください。

スピンドル、チャック、ロッドホルダ、ロッド、ウインチ、コーンプリー、ワイヤ・ロープ、ポンプ、ホース、Wスイベル、貫入試験器、檣、足場板、その他

(負傷) 部位

ヒヤリ・ハットを検知した時、どの部位が負傷する恐れがあったのかを下の枠内から選択してください。[その他] を選択した場合には、その部位を「右側の入力枠」に記入してください。

頭、肩、手、指、胸、肋骨、腹、背、腰、足、足指、その他

ヒヤリ・ハットの概要

ヒヤリ・ハットを検知した時、具体的にどのような作業をしていたのかなど、概要を200文字程度で記入してください。

自身の状況

ヒヤリ・ハットを検知した時、報告者（機長）はどのような状況であったのかについて、該当する物全てにチェックを入れてください（一度チェック跡間違いに気づいた場合は、もう一度チェックすると消えます）。

「今だったらこうする」という**自分なりの対処方法があれば記入してください。**

会社などに対する**提案や要望などがあれば記入してください。**

3. 安全管理者が記載する項目と内容

公開の可否	報告者のケースと同じです。
状態(複数選択)	報告のあったヒヤリ・ハットの状態を、4種類の中から複数選択してください。
状態(複数選択)	報告のあったヒヤリ・ハットの状態を、8種類の中から複数選択してください。

可能な限り、ヒヤリ・ハットの分析を行ってください。

このヒヤリ・ハットへの対応策を記入してください。

リスクの評価	報告のあったヒヤリ・ハットが内在するリスクを評価し、以下の中から選択してください。	
	重度	: ヒヤリ・ハットが事故に繋がった場合、アクシデントが発生すると予想された場合。
	中程度	: ヒヤリ・ハットが事故に繋がった場合、レベル3aの事故が発生すると予想された場合。
	軽度	: ヒヤリ・ハットが事故に繋がった場合、レベル2の事故が発生すると予想された場合。
発生頻度	このヒヤリ・ハットと同じ種類が会社や事業所全体ではどの程度発生しているかを、以下の中から選択してください。	
	高い	: 月に5回以上。
	中程度	: 月に1回以上。
	低い	: 月に1回以下。
対策	報告のあったヒヤリ・ハットに対して、会社や事業所として取る対策と期日について、以下の中から選択してください。	
	完了	: 既に対策済みの場合、その実施期日を記載してください。
	予定	: 予定がある場合、その予定日を記載してください。
	未定	: 対策を取るか取らないか未定の場合。 期日への記載は不要です。
	なし	: 対策を取る予定が無い場合。 期日への記載は不要です。

ありがとうございました。